

# 2019年3月期 第3四半期決算の概要

2019年2月7日



## 興銀リース株式会社

本資料には現時点で入手している情報に基づき当社が判断した将来の予測数値が含まれておりますが、一定のリスクや不確実性が含まれており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。将来に関する事項については様々な要因により変動することがありますので、ご留意下さい。

# ● 2018年度第3四半期の総括

- ✓ 各利益において、過去最高の実績（第3四半期累計）
  - 親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比28%増加の131億円を計上
- ✓ 足元の業績を踏まえ、通期予想を上方修正
  - 親会社株主に帰属する当期純利益は、5次中計の最終年度目標「150億円」の1年前倒し達成、並びに、6期連続の最高益更新を見込む

(単位：億円)

	16年度 3Q	17年度 3Q	18年度 3Q	増減額	増減率
売上高	2,846	2,833	<b>2,666</b>	▲167	▲6%
差引利益	327	332	<b>384</b>	+52	+15%
営業利益	150	141	<b>180</b>	+39	+27%
経常利益	155	147	<b>195</b>	+48	+33%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	105	102	<b>131</b>	+29	+28%

18年度 通期予想*1	前回公表 予想*2	増減額	増減率
<b>3,900</b>	4,200	▲300	▲7%
—	—	—	—
<b>230</b>	200	+30	+15%
<b>247</b>	214	+33	+15%
<b>165</b>	145	+20	+14%

\*1 2019年2月7日公表

\*2 2018年5月9日公表

# ● 決算概要

(単位：億円)

	16年度 3Q	17年度 3Q	18年度 3Q	増減額	増減率
売上高	2,846	2,833	<b>2,666</b>	▲167	▲6%
差引利益	327	332	<b>384</b>	+52	+15%
(資金原価)	(40)	(52)	(62)	+10	+21%
売上総利益	287	281	<b>321</b>	+40	+14%
(信用コスト)	(▲7)	(▲6)	(▲11)	▲5	—
営業利益	150	141	<b>180</b>	+39	+27%
経常利益	155	147	<b>195</b>	+48	+33%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	105	102	<b>131</b>	+29	+28%

## POINT

■ グローバルビジネスの伸長等により、差引利益は大幅に増加

■ 外貨借入の増加によるもの

■ 信用コストは戻入超過が継続

■ 第3四半期累計で過去最高益を達成

	17/3末	18/3末	18/12末	増減額	増減率
営業資産残高	16,087	16,830	<b>19,617</b>	+2,787	+17%
純資産	1,418	1,546	<b>1,611</b>	+65	+4%
自己資本比率	7.8%	8.2%	<b>7.4%</b>	▲0.8pt	—

(単位：億円)

	16年度 3Q	17年度 3Q	18年度 3Q	増減額	増減率
<b>契約実行高</b>	8,115	9,885	<b>11,507</b>	+1,622	+16%
リース・割賦	3,561	2,826	<b>3,892</b>	+1,066	+38%
ファイナンス	4,553	7,024	<b>7,589</b>	+565	+8%
その他	—	35	<b>26</b>	▲9	▲26%

(単位：億円)

	17/3末	18/3末	18/12末	増減額	増減率
<b>営業資産残高</b>	16,087	16,830	<b>19,617</b>	+2,787	+17%
リース・割賦	10,881	11,222	<b>12,511</b>	+1,289	+12%
ファイナンス	5,206	5,569	<b>7,043</b>	+1,474	+27%
その他	—	39	<b>63</b>	+24	+62%

	16年度 3Q	17年度 3Q	18年度 3Q	増減
<b>差引利益率</b>	2.73%	2.74%	<b>2.81%</b>	+0.07pt

(注) 差引利益率 = 差引利益(年換算値) ÷ 営業資産(平均残高)

## POINT

### ■ 契約実行高は前年同期比16%の増加

- ・「リース・割賦」で産業・工作機械、輸送用機器等の実行が増加
- ・「リース・割賦」、「ファイナンス」とともに不動産のブリッジ案件を中心に増加

### ■ 契約実行高の増加に伴い、営業資産残高は前年度末比17%増加

### ■ 差引利益率は上昇

# ● 契約実行高／リース・割賦セグメント

## 機種別契約実行高

## POINT

(単位：億円)

	16年度 3Q	17年度 3Q	18年度 3Q	増減額	増減率
産業・工作機械	753	483	<b>806</b>	+323	+67%
情報通信機器	527	579	<b>660</b>	+81	+14%
輸送用機器	399	400	<b>459</b>	+59	+15%
土木建設機械	256	362	<b>319</b>	▲43	▲12%
医療機器	96	126	<b>159</b>	+33	+27%
商業・サービス業用機器	210	227	<b>276</b>	+49	+22%
事務用機器	76	73	<b>61</b>	▲12	▲16%
その他	1,246	575	<b>1,151</b>	+576	+100%
内) 不動産	1,067	284	<b>921</b>	+637	+224%
合計	3,561	2,826	<b>3,892</b>	+1,066	+38%

■ 設備投資ニーズを確実に取り込み

■ 航空機オペレーティングリースの実行が寄与

■ 良質なブリッジ案件を中心に増加

# ● 契約実行高／ファイナンスセグメント

## 契約実行高

(単位：億円)

## POINT

	16年度 3Q	17年度 3Q	18年度 3Q	増減額	増減率
商流ファイナンス・ 融 資 等	3,732	6,484	<b>6,461</b>	▲23	▲0%
航 空 機	83	227	<b>228</b>	+1	+0%
不 動 産	668	248	<b>753</b>	+505	+204%
船 舶	71	65	<b>148</b>	+83	+128%
合 計	4,553	7,024	<b>7,589</b>	+565	+8%

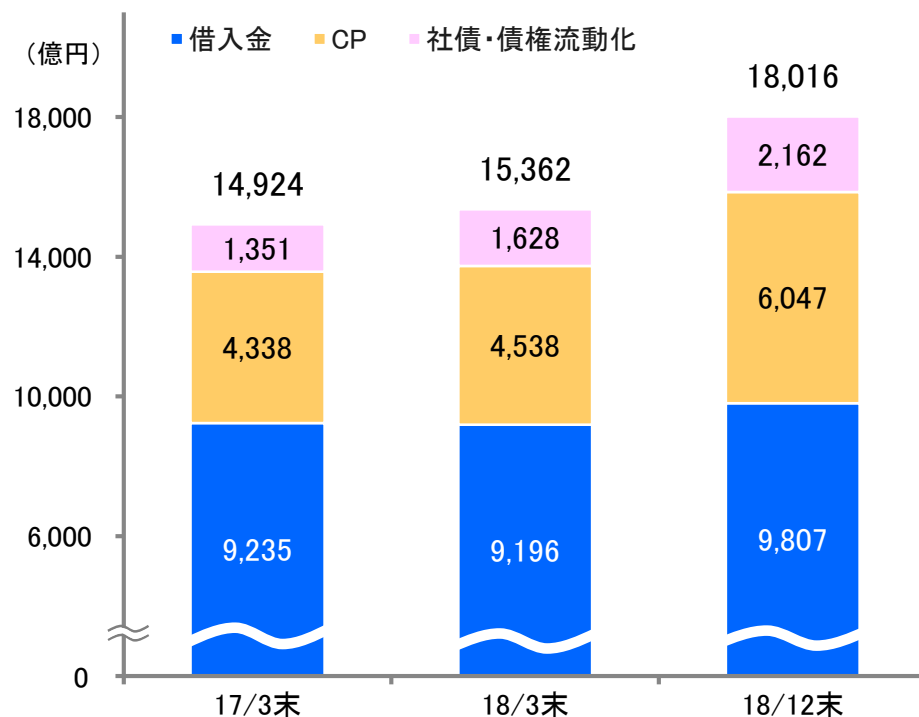
■ 良質なブリッジ案件を取り込み

■ リファイナンス案件が中心

# ● 資金調達等の状況

- 有利子負債残高は営業資産の増加に伴い、前年度末比増加
  - 市場調達も積極的に活用し、2018年10月には初の10年債（100億円）を発行（2018年度の社債発行額 合計670億円）
- 資金原価率の上昇は、グローバルビジネスの伸長に伴う外貨借入の増加によるもの

### 有利子負債残高



### 資金原価（率）

	16年度 3Q	17年度 3Q	18年度 3Q
資金原価 (億円)	40	52	62
資金原価率	0.34%	0.42%	0.46%

(注) 資金原価率 = 資金原価(年換算値) ÷ 営業資産(平均残高)

# ● 業績予想及び配当

## □ 足元の業績を踏まえ、通期予想を上方修正

—親会社株主に帰属する当期純利益の予想は165億円と、中計最終年度目標「150億円」の1年前倒し達成、並びに、6期連続の最高益更新を見込む

(単位：億円)

	2018年度 3Q実績	2018年度 予想 (修正前) ①	3Q進捗率
売上高	2,666	4,200	64%
営業利益	180	200	90%
経常利益	195	214	91%
親会社株主に帰属 する当期純利益	131	145	90%

2018年度 予想 (修正後) ②	増減 ②-①	3Q進捗率
<b>3,900</b>	<b>▲300</b>	68%
<b>230</b>	+30	78%
<b>247</b>	+33	79%
<b>165</b>	+20	79%

2017年度 実績
3,997
192
200
136

	2018年度予想 (修正前)①
年間配当金	76円
中間配当金(実績)*	+2  38円
期末配当金(予定)	38円

\*中間配当で「2円」の増配を実施

配当性向	22.4%
------	-------

2018年度予想 (修正後) ②	増減 ②-①
76円	—
38円	—
38円	—

2017年度 実績
70円
32円
38円

19.6%
-------